

編集室

* 技術が身近な生活を変えていくときには、便利さと同時に何か失われる不安な気持ちが沸き起こることがあります。私が最近そう感じたのは、大規模言語モデルのAIとチャットしたときです。流暢な回答に驚かされると同時に、大袈裟かもしれませんが、AIが提供する答えは、個々人の揺らぎを削ぎ落した個人を超えた普遍的な答えで、それを追い求めることが正しい、という価値観に自分がなっているのでは？というような不安を感じました。

* そう言えば、最近はタイムパフォーマンス（タイパ）を重視して動画コンテンツを早送りで見ると聞きます。私自身も重要な部分以外をちゃんと見ることにストレスを感じ部分的にタイパ視聴をすることがあります。この場合も、枝葉をそぎ落としたものに個人を超えて普遍的な価値があり、それを追い求めることが

正しい、という価値観が背景にあるように思います。いずれも自分という存在は意味がなく、情報を透過させていくスループットだけが求められているような切なさを感じます。「AIが人間を超越する」ということに懸念や不安が語られることが多いですが、それ以前の問題として「ネット上の価値が個人をむなしくする」ということに私は不安を感じているのかもしれませんが。

* こんなことを考えていると「目にうつる全てのことはメッセージ」（荒井由実作詞「やさしさに包まれたなら」より）という歌の一節を思い出しました。AIやタイパ視聴を通して情報と付き合っていくには、ときに、この歌詞にあるように自分自身のまなざしを通して物事を見ることが大切なのかもしれません。

（編集理事 橋本俊和）

11月号特集予定目次

「耐量子計算機暗号の最新動向」

特集編集にあたって	編集チームリーダー 澤島康仁
1. 量子計算機時代のセキュリティ——耐量子計算機暗号の動向——	高木 剛
2. 暗号の発展——軍事外交から社会基盤へ・隠す暗号から認証番号へ——	辻井重男
3. 現行の公開鍵暗号方式に対する Shor のアルゴリズムの脅威	國廣 昇 高安 敦
4. NIST 標準化の格子暗号方式の紹介	安田雅哉
5. 符号暗号とその安全性評価手法	成定真太郎 福島和英 清本晋作
6. 多変数多項式暗号の最近の研究について	池松泰彦
7. ハッシュ関数を用いた署名方式について	廣瀬勝一
8. 同種写像暗号入門	小貫啓史
9. 量子コンピュータ時代の高機能暗号	四方順司 佐藤慎悟 ジョ ヒョンロク 富田斗威
10. 耐量子計算機暗号の安全性評価動向	青野良範
11. 量子コンピュータ時代の暗号技術に関する国内外の標準化動向	篠原直行
12. 耐量子計算機暗号への移行へ向けた課題と社会実装への論点整理	伊藤忠彦